

# 多胎児の育児支援に関する一考察

— 2歳未満の多胎児育児の実態調査から —

大高 恵美<sup>1)</sup> 山本 捷子<sup>2)</sup>

## A Consideration Related to the Support Needs of Multiple Birth. Study on the First Two Years following Multiple Birth

Emi OHTAKA Shoko YAMAMOTO

**要旨：**本研究は2歳未満の多胎児を育てる母親を対象としたアンケート調査の結果である。1. 多胎児を育てる母親の育児協力者は、実母、実父が中心で、身内に集中していた。2. 母親は育児の際に、複数の子どもの欲求を同時に満たそうと対応するが、十分に対応できないことから子どもへの関わり方について困惑している。

このことから、看護者は多胎児を育てる母親に対し、育児協力者の必要性和子どもへの関わり方について助言、指導する必要があることが示唆された。

**キーワード：**多胎児、育児支援、育児協力者

**Summary :** A questionnaire was administered to mothers who have had multiple births whose children are less than two. The questionnaire revealed that : 1. The mother's parents are the major help in raising these children followed by other relatives. 2. Most mothers are very perplexed about the raising of their children but feel a need to meet the needs of each of her children simultaneously.

As a result of this research we suggest that mothers raising more than one child at a time need additional support. This involves assistance and advice both to the mother and to those who would provide support.

**Keywords :** multiple birth, support for infant rearing, support providers,

### はじめに

多胎児を育てる母親は、1人の子どもの育児と異なる多胎児特有の育児上の問題があり、心身の負担は大きいことが数多くの研究でも明らかにされている。近年、殊に社会問題として幼児虐待がクローズアップされているが、乳幼児期の双子が虐待を受ける比率は1人の子に比べ高いことも報告されている。

このことから、多胎児の育児指導は1人の子どもの場合よりきめ細やかな配慮が重要である。

筆者らは、双子の育児支援のあり方に関心をも

ち、平成10年に双子の育児に関して看護職からの情報提供の実態について調査した。その結果から看護職の提供している情報と母親が求める情報には差違があることが明らかにされた。

今回は、多胎児を育てる母親に対する適切な支援のあり方を探るために、入院中に受けた指導や育児情報の入手方法と実際の育児上の困難さ、育児協力者の存在など育児の実情を調査したので報告する。

看護学科 1) 助手 2) 教授

本研究は、平成11年度本学の共同研究費助成をうけ、秋田赤十字病院産科病棟の協力のもとに実施したものである。

<用語の操作的定義>

多胎児：双子・三つ子

育児協力者：子どもの両親以外で育児に協力する人を示す。

I. 研究方法

1. 対象：平成10年7月から平成12年1月までにA病院で多胎児を出産した母親27人  
回答者数19人（回収率70%）

2. 方法

- 1) 調査方法：郵送による質問紙調査
- 2) 調査期間：平成12年7月12日から21日
- 3) 調査内容：育児情報の入手方法、育児の協力状況、病院で受けた指導内容、育児上の困難など

II. 結果

1. 回答者の背景

回答者19人の内訳は双子の母親15人（79%）三つ子の母親4人（21%）であった。

出産時の母親の年齢は、20歳以上25歳未満が3人（16%）、25歳以上30歳未満が4人（21%）、30歳以上が11人（58%）、不明1人（5%）であった。出産年齢の最年少は22歳、最高齢は41歳であった。

出生時の子どもの状態は、子ども全員が低出生体重児であった母親は10人（53%）、1人だけ低出生体重児が5人（26%）、子ども全員が低出生体重児でなかったは3人（16%）、不明1人（5%）であった。

出産時の家族構成は核家族が8人（42%）複合家族が11人（58%）であった。三つ子家庭は、全て複合家族であった

調査時のこどもの年齢は、1歳未満が4人（21%）1歳が15人（79%）であり、全員2歳未満である。

2. 育児情報の入手方法

多胎児向けの育児書・冊子をもっている母親は5人（26%）であった。（図1参照）5人は出産前に育児書・冊子を購入していた。そのうち、4人（80%）は病院で購入していた。

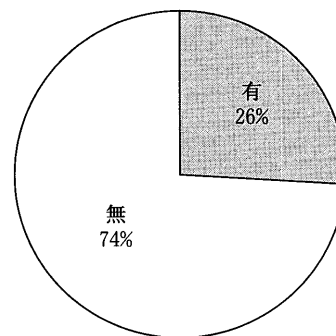


図1 多胎児向けの育児書の有無 (n=19)

3. 育児の協力状況

退院後に育児協力者がいた母親は17人（89%）、いなかった母親は2人（11%）である。（図2参照）

育児協力者の内訳は、実母16人（94%）、実父9人（53%）、義母6人（35%）の順に多かった。育児協力者は実母、実父が中心で、そのほとんどは、身内に限られておりヘルパー等を利用した人はいなかった。（図3参照）17人中14人（82%）には複数の育児協力者がいた。

協力を受けた期間は、核家族の場合は、生後1カ月間が1人（13%）、生後2カ月間が3人（37%）、生後3カ月間が1人（13%）、生後5カ月間が2人（24%）、生後9ヶ月間が1人（13%）であった。

複合家族の場合は、9人中7人（78%）が1歳の現在も育児協力を受けていた。

協力の内容は、「病院受診などの外出時の同行」16人（94%）、「子どもの入浴」14人（82%）、「授乳」14人（82%）、「夜間の育児」11人（65%）であった。

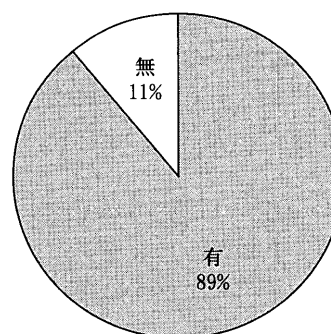


図2 育児協力者の有無 (n=19)

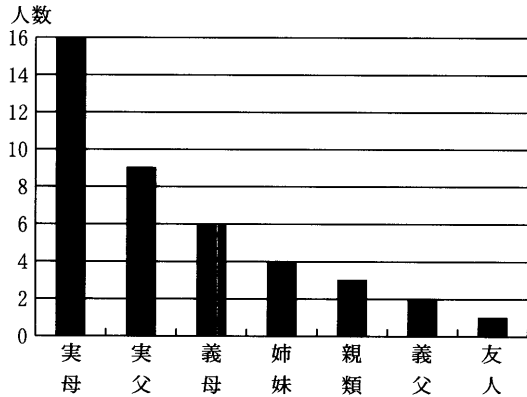


図3 育児協力者の内訳 (n=17 複数回答)

#### 4. 病院で受けた指導内容

A病院の産科病棟では受け持ち制で入院中に個別に育児指導している。その結果については、図4に示すように、「沐浴」、「授乳」、「おむつ交換」の育児技術は、役立ったと答えた母親は80%を越えている。また、「子どもの生理的特徴」「子どもの健康状態・異常時の対処方法」については約60%が役立ったと答えている。しかし、「育児書やサークルなどの情報」は役立ったと答えた母親は26%である。

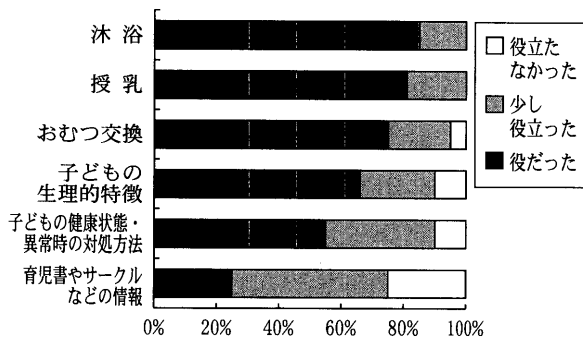


図4 病棟で受けた指導内容 (n=19)

#### 5. 育児上の困難と病院への希望

退院後の育児で困ったことや心配なことがあった母親は、17人(89%)、なかった母親2人(11%)である。(図5参照)

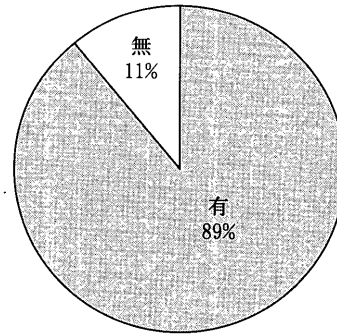


図5 母親の育児における悩みや心配の有無(n=19)

項目別では「子どもの成長・発達の差」10人(59%)、「授乳」9人(53%)、「人手不足」9人(53%)、「沐浴」8人(47%)の順に多い。(図6参照)

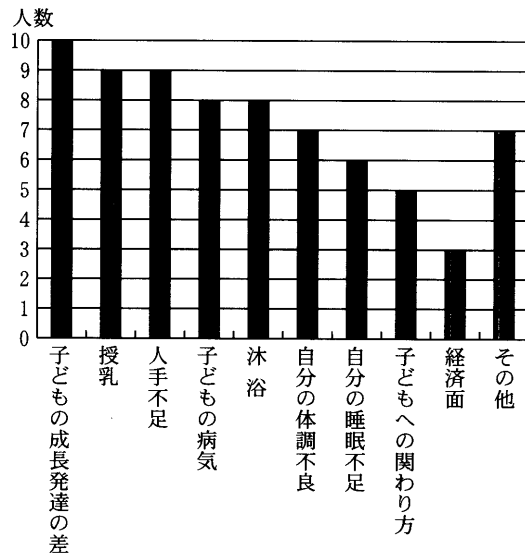


図6 母親の育児における悩みや不安の項目 (n=17 複数回答)

具体的内容を見ると、「子どもの成長・発達の差」に関しては、1日の哺乳量に差があること、1回の哺乳量が少ないこと、標準と比較し子どもの体重が少ないことなどである。

「授乳」に関しては、授乳時に子どもに同時に泣きだされるためのあせりやどのように同時に複数の子どもに対応するかという悩みである。

「沐浴」に関しては沐浴していない子どもから目が離れることを心配している。また、「人手不足」では、睡眠不足や疲労、体調不良を招くことがあげられている。

その他に、上の子供への関わりが少なくなることや育児協力者との育児に対する考え方の違いで

悩んでいる。

これらの困ったことや心配なことの対処方法は「身内に相談する」10人(59%)、次いで「育児書を見る」や「病院を受診した」が、各7人(41%)である。

母親たちの病院への希望は、「病院で双子や3つ子の母親同士が交流できる場が欲しい」「双子・3つ子の育児に関する情報や本をもっと紹介して欲しい」「小さく生まれた子どもに特有の症状を教えて欲しい」などである。

#### IV. 考察

##### 1. 育児情報の提供

調査したA病院では、母子の安全を考え多胎妊娠の場合は、妊娠32~34週頃に母親に管理入院してもらっている。また、平成11年秋より、多胎児サークルが作成した育児冊子を産科病棟で購入し希望する母親に譲る取り組みを始めている。多胎児向けの育児書は、一般の育児書に比べ多胎児特有の問題などについて、体験者の工夫や専門家の助言が記載されている。しかし、一般書店では店頭で並ぶ機会が少なく、手に入りにくい状況にある。多胎児向けの育児書・冊子を持っていた4人の母親は、平成11年秋以降の出産であることから病棟のこの取り組みは母親の育児情報の入手に役立っていると考えられる。

また、母親の予期的不安を軽減させるうえで、特に多胎児の育児経験者の助言は重要である。このことから、母親の育児に対する心構えを形成し予期的不安を軽減するには妊娠中からの情報提供に加え、先輩多胎児の母親と交流を持つことができるように配慮することが必要と考える。

##### 2. 看護者の指導・助言の内容

A病院の産科病棟で看護者は、受け持ち制で入院中に母親に対し個別に「沐浴」、「授乳」、「おむつ交換」「子どもの特性」などについて随時、指導している。母親は指導のうち、退院後の育児で「沐浴」、「授乳」、「おむつ交換」の技術や子どもを理解するための「子どもの生理的特徴」「子どもの健康状態・異常時の対処方法」の知識は、役立っていることが明らかになった。

しかし、「育児書やサークルなどの情報」については、母親たちはもっと詳しい情報を求めていることが明らかになった。多胎児に多い低出生体重児の特徴や起こりやすい状態などの情報につい

てさらに提供していく必要がある。

##### 3. 多胎児への関わり方への助言

多胎児の場合、母親は平等に育てようとして子どもの欲求を同時的に満たそうと対応しがちである。しかし、十分に対応できないことで困惑し、子どもへの関わり方について不安をもつようになる。特に複数の子どもが同時に啼泣すると母親の不安はさらに高まる。

塚田<sup>1)</sup>は「子どもの泣きは、母子の愛情関係を崩壊させる機能もある。再三の過激な泣きやなだめにくい夜泣きなどは、母親の不安を喚起し、育児に対する自信を失わせる」と述べている。

看護者は、退院後の母子関係の形成を円滑にするために、子どもの啼泣時に焦らなくともよいことや1人で対応できない時は勇気をだして他者に協力を頼むことなどを具体的に指導していくことが必要である。

##### 4. 育児協力者の必要性

多胎児の育児には、複数の協力者が存在するが身内に集中していた。横山ら<sup>2)</sup>の研究では、育児協力者がいない母親は、育児協力者のいる母親よりも身体面で重度の疲労を訴えることを報告している。

今回の調査では母親の疲労と育児協力者の有無との関係は明らかではないが、多くの母親に複数の協力者がいることから、多胎児の母親にとって育児協力者は育児の負担や不安を軽減するために重要な存在と考える。母親は、協力者を求めていることが推察される。

母親に他者からの有効な援助が期待できない場合、塚田<sup>1)</sup>は「鬱屈した感情をはらそうと、乳児を無視したり、虐待するなどが生じる」と述べている。虐待やネグレクトの危険性を未然に防ぐためにも、多胎児の育児においては育児協力者が得られるような対策が重要である。

具体的には看護者は、母親に妊娠中から育児協力者の確保に向けて助言、指導する。出産後には育児協力者の支援をどれだけ受けられるかを確認し、支援体制の乏しい場合にはヘルパーなどの活用や地域の公的育児支援サービスを紹介することが望ましい。また、育児協力者に対しては、複数の育児協力者がお互いに疲労を蓄積しないように工夫し、母親を助けることの重要性を強調する必要がある。

## おわりに

今回の調査では、多胎児を育てる母親の育児協力者は、実母、実父が中心で、身内に集中している。また、母親は育児の際に、複数の子どもの欲求を同時に満たそうと対応し、十分に対応できないことから、子どもへの関わり方について、困惑していることがわかった。

以上のことから、多胎児の育児支援においては妊娠中から育児書やサークル等の情報提供及び育児協力者を確保することや子どもに対する思いやりや心くばりは平等にしても、子どもの欲求は個別に対応するなどの育児行動への助言が必要である。

今回の調査にご協力いただきましたお母様方やA病院の方々に心よりお礼申し上げます。

## 引用文献

- 1) 田紘一著：子どもの発達と環境，p. 60，明星大学出版部，1999
- 2) 横山美江，清水忠彦，早川和生：双胎品胎家庭の育児に関する問題と母親の疲労状態，日本公衆衛生雑誌，42（3），p. 187，1995

## 参考文献

- ・関島英子：双子の育児支援，ペリネイタルケア夏季増刊，p.216，1999
- ・早川和生編：双子の母子保健マニュアル，医学書院，1993
- ・水上千賀他：双子の母親への退院指導について 旭川赤十字医誌，10，pp. 72-74，1996
- ・吉田啓治著：多胎妊娠の基礎知識，ジネバル出版，1996
- ・横山美江，清水忠彦，早川和生：双生児の一方の児に対する母親の愛情の偏りと関連要因，日本公衆衛生雑誌42（2），p. 104，1995
- ・横山美江，清水忠彦，由良晶子：多胎児をもつ母親の心身の疲労と育児協力状況，日本公衆衛生雑誌44（2），pp. 81-87，1997
- ・渡辺タミ子他：多胎児をもつ母親の育児状況について，日本公衆衛生雑誌. 44（10），p. 832，1997